

山梨県スポーツ推進プログラムの進捗について(数値目標)

NO	数値目標	基準値	H30年度の 目標値	H26年度の 実績値	進捗率 (%)	実施状況(今後の取り組み)	
<b>政策目標1 『子どものスポーツ機会の充実』</b>							
1	授業以外でほとんど毎日(週3回以上)運動やスポーツを実施している小学生(4・5・6年生)の割合	男	59.3 %	男 65 %	男 57.8 %	-26%	<p>○各校の健康・体力づくり一校一実践運動の改善点を明らかにし、運動習慣がより定着するよう、指導、助言を行う。</p> <p>○レクで学校丸ごと元気アップ事業で展開した取組を情報提供し、子供たちが遊びにのめり込んでいく仕掛けづくりを、学校生活で進められるようにする。</p> <p>○保護者や地域協力者に、子供たちの現状を把握してもらい機会をつくり、運動習慣づくりに向けた取組を家庭や地域と連携して進めていく。また、幼児期からの取組が必要なことから、保護者や指導者への働きかけを行う。</p>
		女	34.1 %	女 40 %	女 33.0 %	-19%	
<b>政策目標2 『健やかな体の育成(学校保健・食育・学校安全)』</b>							
2	朝食を毎日食べる子どもの割合						<p>○朝食を摂らない若者層が増えているという報告もあることから、朝食を摂る習慣のない保護者への効果的な働きかけを研究する。</p> <p>○中学生・高校生への生活習慣を含めたアプローチの方法を研究する。</p> <p>○実践に結びつく、各学校の効果的な取組を発信し続ける。</p>
	小学校6年	男子	91.1 %	男子 95 %	男子 89.8 %	-33%	
		女子	91.7 %	女子 95 %	女子 91.6 %	-3%	
	中学校3年	男子	85.7 %	男子 90 %	男子 85.1 %	-14%	
		女子	87.5 %	女子 90 %	女子 84.5 %	-120%	
	高等学校3年	男子	79.7 %	男子 85 %	男子 82.6 %	55%	
女子		85.8 %	女子 88 %	女子 86.2 %	18%		
<b>政策目標3 『ライフステージに応じたスポーツ活動の推進』</b>							
3	1年間に一度もスポーツをしない者の割合	40.5 %	20.0 %	22.4 %	88%	<p>○協議会において、事例集を参考とし、趣旨の徹底を図るとともに、新たに、アドバイザーによる未実施者の参加促進についての指導助言をいただき、趣旨に沿った取組の促進を図る。</p> <p>○障害者スポーツや高齢者スポーツにも目を向け、健康・福祉関係者との連携を図るため、協議会のメンバーに加える。</p> <p>○事例集を、身近な地域スポーツ促進へのマニュアル的な内容に改訂し、事業改善の参考とする。</p> <p>○オリンピック等を活用した講演会を開催し、指導者の意識を高める。</p>	
<b>政策目標4 『住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備』</b>							
4	総合型地域スポーツクラブを設置している市町村の割合	88.9 %	100 %	92.6 %	33%	<p>○広域スポーツセンタークラブ育成アドバイザーの指導助言の下、連絡協議会の組織の見直しについて検討する。</p> <p>○市町村訪問を継続し、地域の実情に合ったクラブの運営や活動の充実など助言していく。また、設立準備中及び未設置の2町に対して、市町村担当者や既存のクラブマネージャーと連携し、実情に合ったクラブ設立に向け、啓発を図っていく。</p>	

山梨県スポーツ推進プログラムの進捗について(数値目標)

NO	数値目標	基準値	H30年度の目標値	H26年度の実績値	進捗率(%)	実施状況(今後の取り組み)
5	新スポーツ推進計画を策定している市町村(策定中も含む)	11.1 %	80 %	18.5 %	11%	<p>○引き続き市町村担当者会議やスポーツ振興ブロック会議、市町村訪問などあらゆる機会を通じて、県のスポーツ推進プログラムの趣旨説明と、各市町村へ計画策定、スポーツ推進委員の活用など促していく。</p> <p>○スポーツ推進委員協議会の研修を通じて、推進委員の資質向上を図る。</p> <p>○進捗状況等のアンケートを継続して実施し、情報を共有していく。</p>
<b>政策目標5 『競技力の向上』</b>						
6	国民体育大会における個人、団体の上位8位以内の入賞数	79 人	100 人	62 人	-81%	<p>○関東ブロック大会を突破することが国体入賞数の増加につながるため、次のような事業を行っていく。</p> <p>・引き続き成年チームの指定強化や企業スポーツ連絡協議会との連携や学校体育連盟に対する支援を行うことにより活動しやすい環境を整えていく。</p>
7	国民体育大会における天皇杯900点、順位20位台	856.5 点	900 点	892 点	82%	<p>・優秀選手の発掘・育成・強化や指導者養成を目的とした「ジュニアアスリート・トータルサポート事業」を始めとする強化事業を進め、競技者の競技力向上、指導者の指導力向上を図っていく。</p>
		31 位	20 位台	29 位	18%	<p>・県体育協会や各競技団体をはじめとする関係団体と連携し、更なる一貫指導体制の確立と発展に努めていく。</p>
8	トップレベルの競技者の養成・確保のための一貫指導体制を確立している競技団体の割合	78 %	100 %	85 %	32%	<p>○競技団体ごとに行う「競技団体個別会議」や「強化会議」等の場を通じて一貫指導の好事例の情報提供などによりマニュアルの重要性を理解させることにより完成を促す。</p> <p>○ルール改正や指導方法の進歩によるマニュアル未完成の競技団体に対しては、個別に中央競技団体によるマニュアルを参考に完成を促し、一貫指導体制を確立させていく。</p>